

逐條土地收用法資料

(二六)

高 坂 孝 三

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

一、損失補償ノ本質

(一) (大審大正三年(オ)第二八七號) 同四年六月五日言渡

(要旨) 損失ノ補償ハ收用セラルル土地ノ所有者ニミ損害ヲ被ラシムルコトカ國民ノ負擔ヲ平均ナラシメムトスル國家ノ理想ニ適合セサルカ故ニ之ヲ爲スモノナレハ損失ノ補償ヲ爲サシムル權利ヲ公權ナリトスルハ最進歩シタル法律觀念ナルヘシト雖モ我カ收用法ノ精神ハ損失ノ補償ヲ以

テ民法上ノ損害賠償ト爲スニ在ルヤ明白ナリ

(判決理由) 按スルニ土地收用法ハ國家ノ權力ヲ以テ土地收用法ノ定ムル一定ノ手續ニ從ヒ土地所有者ヨリ土地ノ所有權ヲ剝奪スルモノニシテ損失ノ補償ハ收用セラルル土地ノ所有者ニノミ損害ヲ被ラシムルコトカ國民ノ負擔ヲ平均ナラシムトスル國家ノ理想ニ適合セサルカ故ニ之ヲ爲スモノナレハ今若シ純理ヨリ之ヲ論スルトキハ損失ノ補償ヲ爲サシムルノ權利ヲ公權ナリトスルハ最進歩シタル法律觀念ナルヘシト雖モ一國ノ法律ニ於ケル損失補償カ公法的ノ性質ヲ有スルモノナリヤ將タ民法上ノ損害賠償ノ性質ヲ有スルヤハ一ニ其國ノ法律ノ規定ニ準據シテ之ヲ決スヘタ理論一片ニ依リ之ヲ斷スルヲ得ス惟フニ土地收用法第四十七條第一項カ損失ノ補償ハ起業者之ヲ爲スヘキモノトシテ起業者ノ所有權取得ノ對價ナルカ如キ取扱ヲ爲シ第八十二條

カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノトシテ民事事件ト同一ノ取扱ヲ爲シ同第六十五條カ先取特權質權又ハ抵當權ハ其目的物ノ收用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得ルモノトシテ民法上ノ物上代位ト同一ノ取扱ヲ爲シ同第六十四條カ收用審査會ノ裁決ノ後收用物件ニ生シタル滅失毀損ノ危險ハ起業者之ヲ負擔スヘシトシテ双務契約ノ危險負擔ト同一ノ取扱ヲ爲シタルニ依リテ之ヲ察スレハ土地收用法ノ精神ハ損失ノ補償ヲ以テ民法上ノ損害賠償ト爲スニ在ルヤ明白ナリ

(二)

(大審大正十五年(オ)第一六九號)
同十五年五月十七日言渡

(要旨) 土地ヲ收用シタル場合ニ於テ被收用者ニ補償金ヲ與フルハ被收用者ヲシテ公益ノ必要上財産ノ損失ニ依ル特別ノ犧牲ヲ拂ハシメタル爲負擔ノ均衡ヲ得セシムル目的ヲ以テ金錢ニ依リ其ノ損失ヲ填補セントスルニ在ルモノナレハ被收用者カ收用土地ニ對スル財産上ノ損失ヲ填補スヘキ金ヲ得タルトキハ補償ノ規定ヲ設ケタル法律ノ目的ハ既ニ達セラレタルモノト謂フヘク被收用者ハ更ニ其ノ財産ヲ原狀ニ回復スルカ爲ニ要スル費用ノ賠償ヲ請求スルヲ得ス

(判決理由) 土地收用法ニ依リ土地ヲ收用シタル場合ニ於テ被收用者ニ補償金ヲ與フルハ被收用者ヲシテ公益ノ必要上財産ノ損失ニ依ル特別ノ犧牲ヲ拂ハシメタル爲負擔ノ均衡ヲ得セシムル目的ヲ以テ金錢ニ依リ其ノ損失ヲ填補セントスルニ在ルモノナレハ被收用者カ收用土地ニ對スル財産上ノ損失ヲ填補スヘキ金ヲ得タルトキハ補償ノ規定ヲ設ケタル法律ノ目的ハ既ニ達セラレタルモノト謂フヘク從テ被收用者ハ更ニ其ノ財産ヲ原狀ニ回復スルカ故ニ要スル費用ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス本件ニ於テ上告人ハ其ノ所有ニ係ル兵庫縣武庫郡大社村森具字下ノ谷第一九一番溜池ノ内五畝二歩ヲ被上告會社ノ電氣鐵道敷設ノ爲其ノ他ノ土地ト共ニ收用セラレ收用審査會ノ裁決ニ依リ其ノ補償金ヲ一坪金三圓ノ割合ヲ以テ四百五十六圓ト定メタルコトハ當事者間爭ナキ所ニシテ原院ハ右ノ外更ニ溜池ノ貯水量減少ノ結果上告人所有ノ田地ニ灌漑スヘキ水量ニ不足ヲ生シ金四百八十八圓ノ損失ヲ被リタル事實ヲ認メ尙溜池殘部ニ付築堤ヲ爲スヘキ費用トシテ金二百三十八圓ヲ要スルモノト認メ此等ノ金額ヲ上告人ニ補償スヘキモノト判斷シタリ而シテ原判決ニ掲タル證據ニ依レハ此ノ認定ヲ爲シ得サルニアラサルヲ以テ之ヲ不法ト爲スヲ得ス然ラハ上告人ハ如上ノ金額ニ依リ溜池ノ一部收用ニ對スル損失ノ補償ヲ得タルモノト謂フヘク右ノ外

尙貯水量ヲ收用前ノ原狀ニ回復スル爲新ナル溜池ヲ築造スヘキ費用トシテ築造地ノ代金並工事費ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

(三) (大審 大正七年(オ)第六九一號) 同八年八月二十五日言渡)

(要旨) 土地收用法ハ土地ニ關スル權利者ヲシテ公共ノ利益ノ爲メニ其ノ權利ヲ犧牲ニ供セシムルモノニ外ナラサレハ其ノ損失補償ハ周到ニシテ遺憾ナカラシメサルヘカラズト雖モ之方爲メニ土地ノ權利者ヲシテ利益ヲ得セシムヘキニ非ス

(判決理由) 土地收用法ハ土地ニ關スル權利者ヲシテ公共ノ利益ノ爲メニ其ノ權利ヲ犧牲ニ供セシムルモノニ外ナラサレハ其ノ損失補償ハ周到ニシテ遺憾ナカラシメサルヘカラサルハ所論ノ如シト雖モ而モ之方爲メニ土地ノ權利者ヲシテ利益ヲ得セシムヘキニアラス然リ而シテ收用地ニ付キ收用ノ時ニ於ケル補償金額ヲ判定センニハ其當時ニ於ケル收用地ノ位置形狀等ニ基キ之カ利用方法其ノ他諸般ノ狀況ニ依リ定マルヘキ交換價額如何ヲ審査スヘキモノニシテ而モ其ノ價額タル該土地ニ加工シ現在ノ狀態ヲ全然變更スルコトトナシ爲メニ生スル價額ヲ豫想シテ定ムヘキモノニアラス何トナレハ若シ右後段ニ述フルカ如キ方

法ニ依リ之カ價額ヲ定ムヘキモノトセハ土地ノ權利者ハ往々其ノ土地カ收用セラレタル爲メニ却テ利益ヲ受クルコトアルニ至レハナリ

(四) (大審 明治三十二年(オ)第一六〇號) 同三十三年六月二十三日言渡)

(要旨) 土地收用法ニ依リ土地ヲ收用スル起業者ハ故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害スルモノニ非サレハ同法ニ依リ土地所有者及關係人ニ對シ其損失ヲ補償スル外別ニ民法上損害賠償ノ責ニ任スヘキモノニ非ス

(判決理由) 按スルニ法律上ノ原因ナク故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘキハ民法上ノ原則ナリト雖モ土地收用法ノ規定ニ依リテ土地ヲ收用スル起業者ハ右收用法ノ規定ニ依リ土地ノ所有者及ヒ關係人ニ對シ其損失ヲ補償スルノ外尙民法上損害賠償ノ責ニ任スヘキ謂レナシ何トナレハ起業者ハ法律上ノ原因ニ因テ他人ノ土地ヲ收用スルモノナレハ固ヨリ故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタルモノナリト謂フヲ得サレハナリ故ニ原院ニ於テ起業者ハ收用法ノ權利ヲ行フト同時ニ同法ニ規定スル補償義務ヲ負擔スルニ止マリ此成法以外ニアリテ其義務ヲ負擔スヘキモノニ非サルハ勿論起業者カ收用法ニ依リ他人ノ土地ヲ收用スルハ該

法カ起業者ニ與ヘタル權利ナルカ故ニ其ノ收用ニ起因シタル損失ハ起業者ノ不法行爲ニ基クモノト言フヲ得サレハ民法上ニ於テモ起業者ニ對シ其損失ヲ賠償セシムヘキ原因ナシト判定シタルハ結局當ヲ得タルモノナリ

(五) (四五議衆議院特別委員會)

(要旨) 土地ノ收用ニ因リ起業者ヲシテ特別ノ利益ヲ得シムヘキニ非ザルハ勿論又爲ニ被收用者ニ損失ヲ與フルハ之ヲ避クヘキモノニシテ收用ノ前後ハ總テ其ノ利害關係ニ於テ同一ナラシムヘキモノトス

(政府委員說明) 收用ニ因ツテ起業者ガ特別ニ利益スベキモノデナイコトハ固ヨリデ或ル特定ノモノガ必要デアル爲ニ收用スル其ノ結果トシテ或ル特定ノ個人ニ損害ヲ與ヘルト云フコトハ收用法ノ避ケナケレバナラヌ事デアリマス。收用スル前ト收用シタ後トハ總テノ利害關係ニ於テ同シ立場ニ有ルコトガ必要デアリマスカラ其ノ考ヲ以テ執行スルノガ當然デアリマス。是ハ私共カラ申上ケルノモ如何カト思ヒマスガ從來土地收用ノ事務ニ當ル人殊ニ收用ノ仕事ニ直接當ル人ノ如キハ何テモ安ク買フ事カ國家ノ爲ニ非常ナ御奉公テアル一番必要ナコトト考ヘテヤルコトモ有ル様デアリマスカ、私共カラ見レバ決シテ不當ニ其

ノ特定ノ人ニ損害ヲ與ヘルト云フコトハ宜シクナイ事デ、其レガ無ケレバ公共事業ガヤレヌト云フノデ必要上收用スルノデスカラ物質上ノ損害ヲ個人ニ與ヘルコトハ避ケナケレバナラヌ。要スルニ法律ノ規定トシテハ御承知ノ通り第六章ニ損失ノ補償トシテ第四十七條カラ以下ニ於テ包括的ニ書イテアリマス。此ノ規定ニ依リマシテ法ヲ運用スル者ガ宜シク時代ノ趨向ヲ察シ時代時代ニ適應シタ運用ヲセネバナラナイ。

(六) (四五議衆議院特別委員會)

(政府委員說明) 公共事業ヲ經營スルニ當リマシテ此公共事業ノ施行上個人ノ權利ガ犧牲ニ供セラレル是ハ實ニ同情スベキ點デアリマスノデ私共ハ土地收用法ヲ運用シテ行ク上ニ於キマシテ此ノ點ニ最モ考慮ヲ拂ハナケレバナラヌ。言フ迄モナク此ノ土地收用法ノ精神ト申シマスモノハ公共事業ヲ爲ス爲メニ必要缺ク可ラザル詰リ他ノモノヲ以テ換ヘルコトノ出來ナイ特定ノモノヲ收用シテ公益事業ノ遂行ニ役立タシメルト云フノデアリマスカラ決シテ或ル特定ノ個人ニ損害ヲ與ヘルノハ目的デアリ氣ノ毒デアアルカラ其ノ苦痛ニ對スル丈ケノ代償ハ何ウシテモ遣ラナケレバナラヌ……特定ノ國民ニハ特別ノ利益ヲ與ヘル必要ハ無イ！共ニ特定ノ個人ニ對シテ損失ヲ與ヘルト云フコトハス

可キモノデナイ。斯ウ云フ考デ此ノ收用法ヲ運用シテ行カナケレバナラス。

二、損失補償決定ノ性質

(一) (行裁 明治四十年第一一三五號)
同四十二年十一月七日宣告

(要旨) 收用審査會ノ損失補償決定ハ一定ノ事實ニ對シ一定ノ法規ヲ適用スルコトヲ旨トシ公益若ハ行政上ノ便宜ヲ考量シテ斟酌ヲ加フルモノニアラサレハ違法處分ニシテ裁量處分ニアラス

(判決理由) 從參加人ニ於テハ第一收用審査會ノ裁決ニ對シ行政訴訟ヲ提起スルハ收用審査會ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタルモノナルコトヲ要ス然ルニ本件ハ東京府收用審査會カ其ノ權限ノ範圍内ニ於テ定メタル損失補償ヲ不當トスルニ在リテ所謂行政廳ノ自由裁量ノ範圍ニ屬スル處分ヲ非難スルニ止リ行政訴訟ノ要件ヲ缺クモノナレハ原告ニ訴權ナク行政裁判所ニ管轄權ナシト云フモ收用審査會ノ損失補償決定ハ一定ノ事實ニ對シ一定ノ法規ヲ適用スルコトヲ旨トシ公益若ハ行政上ノ便宜ヲ考慮シテ斟酌ヲ加フルモノニアラサレハ違法處分ニシテ裁量處分ニアラス從テ其裁決力違法ニアラサルヤ否ノ問題生シ得ヘキハ洵ニ賭易キ所ナリ而シテ本件ハ原告ニ於テ東京府收用審査

會ノ違法裁決ニ因リ權利ヲ傷害セラレタリトスルニ在リテ土地收用法第八十一條第二項ニ於ケル行政訴訟ノ要件ヲ具備セリ然ラハ原告ハ行政訴訟ヲ提起シ得ルモノニシテ行政裁判所ニ管轄權ナシト謂フヲ得ス

(二) (行裁 明治四十年第一一三七號)
同四十二年十一月七日宣告

(要旨) 土地ノ收用若クハ使用ニ對スル損失補償決定ニハ或事項ニ對シ補償スヘキヤ否ヤヲ決定スルト補償スヘキ事項ニ對シ補償金額ノ多寡ヲ決定スルトノ二者ヲ包含ス而シテ前者ハ土地收用法第四十九條ノ規定ヲ適用シ之ヲ決定スヘキモノナレハ所謂依法處分ナリトス

(判決理由) 從參加人ハ土地ノ收用若クハ使用ニ對スル損失補償決定ハ行政上所謂自由裁量範圍ニ屬スルモノトシ本件被告ノ處分ニ對スル訴訟ハ當裁判所ノ管轄ニ屬セスト云フモ土地ノ收用若クハ使用ニ對スル損失補償決定中ニハ或事項ニ對シ補償スヘキヤ否ヤノ決定ト補償スヘキ事項ニ對スル補償金額ノ多寡ヲ決定スルノ二者ヲ包含シ或事項ニ對シ補償スヘキヤ否ヤハ土地收用法第四十九條ヲ適用シ決定スヘキモノナレハ所謂依法處分ト云ハサルヘカラス從參加人ハ二者ヲ混同シ本件ハ裁量處分ナリト云フモ本件ハ特別高壓電氣用ノ電線ヲ原告所有地内ニ架設

スルモ電柱敷地使用ニ對スル補償ノ外ニ補償スヘキ事項ナキヤ否ヤ換言スレハ或事項ニ對スル損失ヲ補償スヘキヤ否ヤノ爭議ニシテ之ヲ決定スル場合ニ於テハ從參加人自ラ認ムルカ如ク土地收用法第四十九條等ヲ適用スヘキモノナレハ依法處分ト云ハサルヘカラス而シテ被告ハ法規ノ明文ニ依リ補償額ヲ決定セリト云フニ對シ原告ハ被告ノ處分ハ法律ノ明文ニ違反セリト云フモノナレハ結局本件爭點ハ被告ノ處分ノ適法ナリヤ否ヤニ在リ然レハ土地收用法第八十一條第二項ニ依リ本訴ノ當裁判所ノ管轄ニ屬スルハ明ナレハ從參加人ノ妨訴抗辯ハ採用スルヲ得ス

(三) (大審 大正七年(オ)第八九六號)
同九年七月二十三日言渡民事聯合判決)

(要旨) 收用スヘキ土地其ノ區域又ハ收用スヘキ物件カ確定シタルトキハ其ノ收用カ被收用者ノ財產權ニ及ホシタル損失如何ノ問題ニ付キ土地物件ノ收用ト被收用者ノ受ケタル損害トノ間ニ因果關係ノ有無ヲ認定シ因テ以テ其ノ損害ヲ確定シ起業者ヲシデ之ニ相當スル金額ヲ被收用者ニ支拂ハシメ被收用者ヲシテ土地物件ノ收用ニ因リテ被リタル財產上ノ補償ヲ受クルコトヲ得セシムルハ其ノ本來ノ性質ニ於テ土地物件ノ收用ヨリ生シタル事項トシテ之ヲ行政裁判

所ノ權限ニ屬セシムルヨリモ寧ロ之ヲ司法裁判所ニ委ネ之カ解決ノ任ニ當ラシムルヲ以テ立法ノ要諦ヲ得タルモノト云ハサルヘカラス

(判決理由) 按スルニ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲メニ之ニ要スル私人ノ土地ヲ收用スルハ公益上ノ必要ヨリ生スル公法關係ニ屬スルヲ以テ收用スヘキ土地並ニ其區域及ヒ收用スヘキ物件ヲ定ムルハ公益事業ノ性質ト被收用者ノ利益ヲ參酌シ之カ調和ヲ主眼トスル公法上ノ問題タル性質ヲ有シ之カ結局ノ斷定ハ純然タル行政處分トシテ之ヲ行政裁判所ノ裁判ニ委ヌルヲ妥當トシ司法權ノ行動ヲ促スヘキ立法政策上ノ必要ヲ認メスト雖モ既ニ收用スヘキ土地其區域又ハ收用スヘキ物件カ確定シタルトキハ其收用カ被收用者ノ財產權ニ及ホシタル損失如何ノ問題ニ付キ土地物件ノ收用ト被收用者ノ受ケタル損害トノ間ニ因果關係ノ有無ヲ認定シ因テ以テ其ノ損害ヲ確定シ起業者ヲシテ之ニ相當スル金額ヲ被收用者ニ支拂ハシメ被收用者ヲシテ土地物件ノ收用ニ因リテ被リタル財產上ノ損失ヲ受クルコトヲ得セシムルハ其本來ノ性質ニ於テ土地物件ノ收用ヨリ生シタル事項トシテ之ヲ行政裁判所ノ權限ニ屬セシムルヨリモ寧ロ之ヲ司法裁判所ニ委ネ之カ解決ノ任ニ當ラシムルヲ以テ立法ノ要諦ヲ得タルモノト云ハサルヘカラス蓋シ所有權其ノ他ノ財產權ノ損失ニ對

スル救済トシテ金錢賠償ヲ求ムル訴訟ハ司法裁判所ノ權限ニ屬スルヲ普通ノ原則トスルヲ以テ被收用者カ公益上ノ必要ニ因リ行政處分ヲ以テ其ノ土地物件ヲ收用セラルルノ已ムヲ得サル場合ト雖モ起業者ヲシテ其ノ損失ヲ補償セシムルハ所有權其ノ他ノ財產權ノ保護ニ於テ必要不可缺ノ事ニ屬スルノミナラス之ニ關スル訴訟ハ司法裁判所ヲシテ之ヲ解決セシムルヲ以テ立法政策上ノ機宜ニ適スルモノト云フコトヲ得レハナリ

三、損失補償範圍決定ノ方法

(一) (大審大正五年(オ)第二〇四號) 同五年五月三十一日言渡)

(要旨) 土地收用法ハ補償スヘキ事項ノ範圍ヲ規定シ此範圍外ニ屬スルモノハ縱令被收用者ニ於テ損失ヲ被ムルコトアルモ收用法ニ依リ補償セラルルコトナキモノナルヲ以テ先ツ第一ニ或事項カ收用法ニ依リ補償セラルヘキ性質ヲ具スルヤ否ヤヲ決定シ然ル後損失ノ有無ヲ決定スヘキヲ當然ノ順序トセサルヘカラス

(判決理由) 上告論旨ハ或事項カ補償セラルヘキモノニ屬スルヤ告ヤノ問題ハ損失ノ有無ヲ前提トスルモノナルカ故ニ損失ノ有無ニ關スル收用審査會ノ裁決ハ即チ補償ノ可否ヲ決定スル行

政行為ニ外ナラスト云フニ在ルモ土地收用法ハ補償スヘキ事項ノ範圍ヲ規定シ此範圍外ニ屬スルモノハ假令被收用者ニ於テ損失ヲ被ルコトアルモ收用法ニ依リ補償セラルルコトナキモノナルハ損失ノ有無ハ補償ノ性質ヲ具有スルモノナルト否トヲ決スル標準ト爲ルヘキモノニ非サルカ故ニ先ツ或事項カ收用法ニ依リ補償セラルヘキ性質ノモノナルヤ否ヤヲ決シ然ル後進シテ損失ノ有無ヲ決定スヘキヲ寧ろ當然ノ順序トセサルヘカラス然ラハ所論見解ヘ之ヲ採用スルヲ得ス依テ記録ニ就キ原判決ノ證據トナリタル本件請求ノ趣旨ヲ考フルニ被上告人ハ福岡縣收用審査會カ上告人ニ於テ收用ニ依リ減縮セラレタル鑛滓捨場ニ代ハルヘキ鑛滓排除ノ設備ニ要スル費用ヲ收用ニ因ル損失トシテ之カ補償ヲ上告人ニ付與シタル裁決ニ對シ斯ル設備ノ必要ナキヲ以テ上告人ハ損失ヲ被ムリタルモノニアラスト主張シ該裁決ヲ攻撃セントスルモノニシテ斯ル設備カ元來收用法上補償セラルヘキ事項ニ屬セサルヲ以テ不服ノ理由ト爲スモノニ非サルヲ以テ本訴ヲ適法トシテ上告人ノ爲シタル無訴權ノ抗辯ヲ排斥シタル原判決ハ相當ニシテ毫モ所論ノ如キ法律ノ解釋ヲ誤リタル不法アルコトナシ

(二) (大審大正七年(オ)第八九六號) 同九年七月二十三日言渡民事聯合部判決)

(要旨) 凡ソ一定ノ原因ヨリ生スル損失ノ範圍ヲ定ムルニ

ハ其ノ原因タル事實ト損失トノ間ニ存スル因果關係ヲ確定スルコトヲ必要トシ此ノ二者ハ分離スヘカラサル密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ司法裁判所ハ損失ノ金額ヲ確定スルニ臨ミ其ノ前提トシテ土地ノ收用ト損失トノ間ニ因果關係ノ存否ヲ確定スルノ權限ヲ有スルハ當然ナリ

(判決理由) 土地收用法第八十二條ニハ「收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルトヲ得」トアリテ同條ニ使用スル「補償金額」ナル文詞ニ徵スルトキハ司法裁判所ノ權限ニ屬スル事項ハ單ニ補償金ノ數額即チ其多寡ノミニ限定セラレ其以外ノ一切ノ事項就中共數額ノ因テ生スル因果關係ノ有無ヲ認定スルコトハ其權限ノ外ニ屬スヘキニ似タリト雖モ此解釋ハ之ヲ是認スルヲ得ス凡ソ一定ノ原因ヨリ生スル損失ノ範圍ヲ定ムルニハ原因タル事實ト損害トノ間ニ存スル因果關係ヲ確定スルコトヲ必要トシ此二者ハ分離スヘカラサル密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ司法裁判所ハ損失ノ金額ヲ確定スルニ臨ミ其前提トシテ土地ノ收用ト損害トノ間ニ因果關係ノ存否ヲ確定スルノ權限ヲ有スヘキハ理ノ當然ナルノミナラス損失補償ヲ目的トスル訴訟ニ於テ法律上最重要ナル事項ハ因果關係ノ問題ニシテ數額ノ問題ハ全然從屬の性質ヲ有スルモ

ノナルヲ以テ若シ司法裁判所カ損失ノ補償ニ關シ裁判ヲ爲スニ當リ不當ニ因果關係ヲ肯定シ又ハ之ヲ否定シタル土地收用審査會ノ裁決又は行政裁判所ノ裁判ニ服從セサルヘカラストセンカ其權限極メテ局限セラレ法律カ特ニ損失補償金ニ關スル裁判權ヲ司法裁判所ニ歸屬セシメタル實益ハ殆ト之ナキニ至ルヘク斯クノ如キハ決シテ立法ノ精神ニ適合スルモノト解スルヲ得ス

四、補償權利者ノ範圍

(五一) 議昭和二年三月十七日
衆議院特別委員會

(要旨) 損失ノ補償ヲ受クル者ハ土地所有者若ハ關係人ナルコトヲ必要トシ收用若ハ使用ノ目的ニ非サル土地又ハ其ノ土地ニ在ル建物ノ權利者ノ如キハ假令近接土地ノ收用ニ因リ不利益ヲ被ルコトアリトスルモ土地收用法ニ依リ補償セラルルコトナシ

(政府委員答) 其ノ土地ハ收用セラレナイ併シ之ヲ其ノ土地ノ直グ前ニ電車方通路トカ道路ヲ造ルトカ云フ關係地盛リヲサレテ其ノ土地ノ使用ニ不都合ヲ來シタト云フ場合ハ補償ヲスルカ何ウカト云フコトデアリマスガ、土地收用法デ補償ヲ致シマスモノハ先ヅ關係人デアルコトヲ必要トスル立前ニナツテ居リマス。關係人ハ第五條ノ規定ニ依リマシテ收用又ハ使用セラレ

ベキ土地又ハ其ノ土地ノ上ニ在ル建物ニ付テ權利ヲ有スル者ニ
限ルノデアリマシテ收用モ使用モセラレナイ土地ノ所有者若ク
ハ其土地ニ關スル權利ヲ持ツテ居ル者ハ關係人ニナラナイコト
ニナツテ居リマス。土地收用法テ補償ヲ受ケルニハ所有者カ關
係人デアルコトヲ必要トスル立前ニナツテ居リマスカラ今ノ御
話ノ様ナ場合ニハ土地收用法ニ依ツテ補償ヲ得ル途ガ現在ニ於
テハ無イ改正法ニ於キマシテモ其處迄補償ノ途ヲ開イテ居ラナ
イノデアリマス。

五、各人別ニ見積リ難キトキノ意義

(一) (行裁大正九年第七五號)
同十年十一月十日宣告

(要旨) 土地收用法第四十七條第二項但書ニ所謂各人別ニ
見積リ難キトキトハ相當ノ程度ヲ超ユル手續費用等ヲ要ス
ルニ非サレハ各人別ニ見積ルヲ得サルトキヲモ包含スト解
スヘク收用土地ノ賃借權カ其ノ存續期間不明ナル場合土地
所有者ニ對スル補償額ト其ノ賃借權者ニ對スル補償額トヲ
各人別ニ見積リ難キ場合ナリトシテ補償額ヲ決定スルハ失
當ニアラス

(判決理由) 按スルニ土地收用法第四十七條第二項但書ニ所謂

各人別ニ見積リ難キトキトハ相當ノ程度ヲ超ユルノ手續費用等
ヲ要スルニ非サレハ各人別ニ見積ルコトヲ得サルトキヲモ包含
スト解スヘキハ當裁判所大正十年第三十四號及第三十五號兩件
ニ於テ判示シタル所ナリ而シテ本件收用土地ノ賃借權ハ其ノ存
續期間不明ナルカ故ニ土地所有者ニ對スル補償額ト其ノ賃借權
者ニ對スル補償額トヲ各人別ニ見積リ難キ場合ナリトシテ補償
額ヲ決定シタルハ失當ニアラス而シテ起業カ賃借權消滅ニ對ス
ル補償額ヲ土地ノ補償額中ニ包含セシメテ土地ニ關スル權利ノ
取得ヲ爲シ度キ旨ヲ申込ミタルニ對シ原告ハ土地所有者ノ補償
額ト賃借權者ノ補償額トヲ各別ニ明示セラレ度キ旨ノ回答ヲ爲
シ相方互ニ其異リタル主張ヲ固持シ相讓ラサリシヲ以テ起業者
カ土地收用法第二十二條ニ依リ所謂協議調ハサルトキニ該當ス
ルモノトシテ收用審査會ノ被決ヲ申請シ被告カ該申請ヲ却下セ
サリシハ違法ニアラス

(二) (行裁大正十年第三四號)
同十年七月二十一日宣告

(要旨) 土地收用法第四十七條第二項但書ニ所謂各人別ニ
見積リ難キトキトハ相當ノ程度ヲ超ユル手續費用等ヲ要ス
ルニ非サレハ各人別ニ見積ルコトヲ得サルトキヲモ包含ス
ト解スヘキモノトス

〔判決理由〕土地收用法第四十七條第二項但書ニ所謂各人別ニ見積リ難キトキトハ相當ノ程度ヲ超ユル手數費用等ヲ要スルニ非サレハ各人別ニ見積ルヲ得サルトキヲモ包含スト解スヘキモノナリ而シテ賃借權消滅ニ對スル補償額ハ其ノ賃借權ノ存續期間ノ定ナキコト及賃料明ナルトキト雖賃料以外ノ經費等ヲモ調査シ且特別ノ技能又ハ經驗アル者ノ意見ヲモ徵スルニ非サレハ各人別ニ之ヲ見積ルコトヲ得サルヘク本件ノ如キ收用スヘキ土地ノ面積少ク賃料モ小額ナル場合ニ在リテハ相當ノ程度ヲ超ユル手數費用等ヲ要スルコトト爲ルヘシ然レハ被告カ各人別ニ見積リ難キ場合ナリトシテ補償額ヲ認定シタルハ失當ナリト爲スヘキニ非ス

六、共有地ノ損失補償ト補償金ノ分配

〔大審 明治三十八年(オ)第一九九號
同三十八年十月三十一日言渡〕

〔要旨〕共有地カ土地收用法ニ依リ收用セラレ共有者中ノ數人ニ於テ其ノ補償金ヲ受領シタル場合ニ於テハ特別ノ契約存セサル以上ハ他ノ共有者ハ各自持分ニ應シテ補償金ノ分配ヲ請求スルノ權利ヲ有ス而シテ共有者カ此權利ヲ行使スルニハ必スシモ其全員共同シテ之ヲ爲スノ要ナシ

〔判決理由〕按スルニ本件ノ如ク共有地カ土地收用法ニ依リ收

用セラレ共有者中ノ數人カ其補償金ヲ受領シタル場合ニ於テハ他ニ特別ノ契約存セサル以上ハ他ノ共有者ハ各其持分ニ應シ補償金ノ分配ヲ請求スル權利ヲ有スルヤ固ヨリ論ヲ俟タス而シテ共有者カ此ノ權利ヲ行使スルニハ必スシモ共有者全員カ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非スシテ各共有者ハ單獨ニ之ヲ行使スルコトヲ得ヘシ何トナレハ金錢ハ性質上何時ニテモ公平ニ分割シ得ヘキモノニシテ各共有者ニ對シ別々ニ分配スルモ他ノ共有者ノ利害ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニ非サレハナリ故ニ本件ハ共有者全員ノ必要ノ共同訴訟ニ非スト謂フヘシ然ルニ原判決ハ本件ノ請求ヲ以テ共有者全員ノ間ニ於テノミ爲スコトヲ得ヘキモノト爲シ本件當事者以外ニ尙一二ノ共有者ノ存在スル事實ノミニ依リ上告人ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ニシテ原判決ハ全部破毀ヲ免レサルモノトス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

一、土地價格決定ノ標準

(一)

〔大審 大正五年(オ)第八〇〇號
同五年十一月八日言渡〕

〔要旨〕收用スヘキ土地ニ付テハ被收用者カ其土地ノ利用

ニ關シ特別ノ設備ヲ爲シタル場合ハ格別一般ニハ其收用時期ニ於ケル交換價格ニ依リ收用價格ヲ定ムヘク收益價格ニ依リ算定スヘキモノニアラス

(判決理由) 收用スヘキ土地ニ付テハ被收用者カ其土地ノ利用ニ關シ特別ノ設備ヲ爲シタル場合ハ格別一般ノ場合ニ於テハ其收用時期ニ於ケル交換價格ニ依リ收用價格ヲ定ムヘキモノトス本件ニ於テ係争ノ土地ニ關シ上告人カ何等特別ノ設備ヲ爲シタルニアラスシテ一般市街土地ノ利用方法トシテ貸家ヲ建設シタルニ過キササルコトハ原審ノ認定スル所ナレハ本件土地ノ收用ニ關シ原告カ鑑定人ノ鑑定ヲ綜合シ收用時期ニ於ケル時價ヲ標準トシテ收用價格ヲ判定シタルハ相當ナリ然ラハ原審カ上告人ノ收益價格ニ依リ土地ノ價格ヲ算定スヘキモノナリトノ主張ノ下ニ爲シタル證人ノ申請ヲ却下シタルハ相當ニシテ論旨第二點ハ理由ナク又論旨第三點及第四點ハ何レモ收益價格ニ依ルヘキコトヲ前提トスルモノナルヲ以テ假ニ原判決ノ如キ不法アリトスルモ原判決ヲ破毀スルノ理由ト爲ラサルヲ以テ何レモ之ヲ採用セス

(二)

(大審 大正七年(オ)第六九一號
同八年八月二十五日言渡)

(要旨) 收用地ニ付キ收用ノ時ニ於ケル補償金額ヲ判定セ

シニハ其當時ニ於ケル收用地ノ位置形狀等ニ基キ之カ利用方法其他諸般ノ狀況ニ依リ定マルヘキ交換價額如何ヲ審査スヘキモノニシテ而モ其價額ハ該土地ニ加工シ現在ノ狀態ヲ全然變更スルコトト爲シ爲メニ生スル價額ヲ豫想シテ定ムヘキモノニ非ス

(判決理由) 土地收用法ハ土地ニ關スル權利者ヲシテ公共ノ利益ノ爲メニ其權利ヲ犧牲ニ供セシムルモノニ外ナラサレハ其損失補償ハ周到ニシテ遺憾ナカラシメサルヘカラサルハ所論ノ如シト雖モ而カモ之カ爲メニ土地ノ權利者ヲシテ利益ヲ得セシムヘキモノニアラス然リ而シテ收用地ニ付キ收用ノ時ニ於ケル補償金額ヲ判定センニハ其當時ニ於ケル收用地ノ位置形狀等ニ基キ之カ利用方法其他諸般ノ狀況ニ依リ定マルヘキ交換價額如何ヲ審査スヘキモノニシテ而カモ其價額タル該土地ニ加工シ現在ノ狀態ヲ全然變更スルコトト爲シ爲メニ生スル價額ヲ豫想シテ定ムヘキモノニアラス何トナレハ若シ右後段ニ述フルカ如キ方法ニ依リ之カ價額ヲ定ムヘキモノトセハ土地ノ權利者ハ往々其土地カ收用セラレタルカ爲メニ却テ利益ヲ受クルコトアルニ至レハナリ

二、土地價格ト營業上ノ利便

(一) (行裁大正三年第一一五號
同三年七月二十日宣告)

(要旨) 營業上利便ナル土地カ收用セラレタル場合ニ於テ將來ノ營業ニヨル利益ハ土地ノ價格ニ影響スルモノナルカ故ニ土地ニ對スル補償金額中ニ算入セラルヘキモノニシテ土地所有者ハ土地ニ對スル補償ノ外別ニ此ノ如キ損失ニ對スル補償ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

(判決理由) 土地所有者カ現ニ營業ヲ爲ササルモ若シ本件ノ如キ營業上利便ナル土地カ收用セラレルコトナカリシトセハ土地所有者ハ將來自己ニ於テ營業ヲ爲スト否トニ拘ラス此ノ土地ニ於テ爲サル營業ニ因リテ生シ而モ他ニ比シテ多大ナル利益ノ一部ヲ土地所有者トシテ收受シ得ヘキ筈ナル場合ニ於テハ收用ノ爲此ノ如キ利益ヲ失フ理ナリト雖モ土地所有者ノ此ノ如キ利益ハ土地ノ價格ニ影響スルモノナルカ故ニ土地ニ對スル補償金額中ニ算入セラルヘキモノニシテ土地所有者ハ土地ニ對スル補償ノ外別ニ此ノ如キ損失ニ對スル補償ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

(二) (行裁大正三年第九五號
同三年十二月二十三日宣告)

(要旨) 營業者カ優勝ノ利益ヲ獲得スルハ其ノ土地カ單ニ

優勝ノ位置ヲ占ムルカ爲ナリトセハ其ノ利益ハ即チ該土地ノ價格ノ一部ニ外ナラス從テ土地ノ價格ニ對スル代價ノ補償ヲ受クル外他ニ補償ノ原因アリト云フコトヲ得ス

(判決理由) 原告ハ本件收用地ハ原告等ノ營業上山田市ノ内無二ノ優勝ナル土地ニシテ原告等ハ此ノ土地ヲ占ムル爲從來優勝ノ利益ヲ獲得シ來リタルニ一朝此ノ土地ヲ離ルルトキハ將來享受スヘキ利權ヲ永久ニ奪ハルヘク且又原告正木眞吉ノ邸宅ハ自然ノ風光ヲ以テ庭園ト爲シ其ノ邸内ニ庭園ヲ作ラス宅地全面ニ家屋ヲ建築シタルカ爲ニ他ニ轉退スルトキハ庭園ヲ作ルコト必要トナリ從テ現在ヨリモ廣キ宅地ヲ要スルノ不利益アリ故ニ其ノ補償ヲ求ムル權利アリト主張スルモ土地ノ價格ハ該土地ノ位置周圍ノ狀況利用上ノ便否等種々ノ原因ニ依リテ定マルモノナレハ原告等カ收用土地ニ對スル相當ノ價格ヲ補償セラレタル以上ハ即チ其ノ土地ノ風光ノ佳絶ナルコト營業上利便ナルコトヲ斟酌シテ補償セラレタルモノト云ハサルヘカラス原告ハ土地所有者ト營業者トヲ區別シテ觀察シ土地カ優勝ナル位置ニ在ルカ爲其ノ價格カ贖費スル以外ニ營業者ハ其ノ優勝ノ位置ニ在ルカ爲優勝ノ利益ヲ獲得シ得ヘシ然レハ其ノ補償ヲ求ムル權利アリト主張スト雖モ營業者カ優勝ノ利益ヲ獲得スルハ其ノ土地カ單ニ優勝ノ位置ヲ占ムルカ爲ナリトセハ其ノ利益ハ即チ該土地ノ

價格ノ一部ニ外ナラス從テ土地ノ價格ニ對スル代價ノ補償ヲ求ムル外他ニ補償ノ原因アリト云フコトヲ得サルニ依リ原告ノ主張ヘ採用スルコトヲ得ス

三、損失補償額決定ノ標準時期

(一) (大審 昭和十二年(オ)第二一七九號) 同十三年三月三十日言渡)

(要旨) 土地ノ收用ヲ必要トスル事業ニ因リテ招來セラルヘキ繁榮ヲ期待シテ收用地附近ノ土地ノ價格ノ昂騰ヲ來ストキハ收用地ノ價格ノ昂騰率モ之ニ劣ラサルヘク其ノ昂騰シタル價格ヲ以テ收用ニ因ル損失補償額ト爲スヘキモノトス

(判決理由) 土地收用法ニ依リテ土地ノ收用ヲ爲ス場合ニ於ケル損失補償ハ土地所有者カ其ノ收用ヲ必要トスル事業ニ因リテ蒙ル損失ノ補償ニ非スシテ收用自體ニ因リテ蒙ル損失ノ補償ニ外ナラサルモノト解スルヲ相當トシ收用地及其ノ附近土地ノ所有者カ右ノ事業ニ因リテ受クル損益ニ付テハ毫モ同法ノ規定スル所ニ非ス而シテ其ノ事業ニ因ル收用地ノ客觀的利用價值ノ増進率ハ附近土地ノソレニ優ルトモ劣ルコトナカルヘキカ故ニ附近ノ土地カ右ノ事業ニ因リテ招來セラルヘキ繁榮ヲ期待シ

テ價格ノ昂騰ヲ見タル場合ニ在リテハ收用地自體ノ價格ノ昂騰率モ之ニ劣ルコトナク其ノ昂騰シタル價格ヲ以テ收用ニ因ル損失補償ノ額ト爲スヘキモノト解スルヲ妥當トス(當院昭和八年(オ)第三九六號同九年二月二十六日判決並昭和十一年(オ)第二三〇號同年五月二十七日判決參照)

(二) (大審 昭和十一年(オ)第八〇六號) 同十一年六月十六日言渡)

(要旨) 土地收用ニヨル損失ノ補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル收用地ノ價格ヲ標準ト爲スヘキモノニシテ收用ノ目的タル事業ノ爲ニ收用時期迄ニ收用地ノ價格ニ高低ヲ來シタル場合ト雖其ノ高低シタル價格ニ從フヘキモノトス

(上告理由) 一、原判決ハ「被告訴訟代理人ハ土地收用ニ因ル損失補償ニ於テハ被收用者カ現實ニ被リタル損害ノミヲ補償スヘキモノニシテ土地收用ニヨリ失ハルヘキ權利又ハ物件ノ價格ハ恰カモ收用力價格ニ無影響ナリシカ如ク評價セラルヘク從テ當該收用ヲ手段トスル起業ニヨリ被收用物件又ハ權利ニ生セシムルモノト考ヘラルヘキ増加價格ノ如キハ補償價格中ニ算入スヘキモノニアラスト主張スレトモ土地收用ニ因ル損失ノ補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル收用物件ノ價格ヲ標準ト爲スヘキモノニシテ收用ノ目的タル事業ノ爲メニ收用時期迄ニ收用物件ノ價格

ニ高低ヲ來シタルトキト雖モ其ノ高低シタル價格ニ從フヘキモノナレハ右主張ハ採用シ難シト判示シタルトモ之上告人ノ服スル能ハサル所ナリ

二、土地收用法第四十七條第一項ハ「土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ」ト規定セリ此處ニ所謂損失ノ補償トハ損害ノ賠償ト云フニ異ナラサルヲ以テ同條規定ノ趣旨ハ畢竟スルニ土地收用ナル加害事故ニヨリ土地所有者及關係人カ受ケタル損害ヲ起業者ヲシテ賠償セシムルニアリテ土地收用ニ因リ之等ノ者カ得ヘカリシ利益ノ賠償ヲ命シタルモノニアラサルコトハ一般損害賠償ノ理論ニ照シ何等ノ疑ヲ容ルヘキニアラス然リ而シテ土地ノ收用ハ夫レ自體ヲ目的トシテ行ハルルモノニアラス必スヤ一定ノ起業施行ノ手段トシテ或ハ寧ロ當該起業ノ一部トシテ行ハルルモノナルカ故ニ土地收用ニ因リ所有者又ハ關係人ニ如何ナル利益ノ齎ラスヤノ問題ハ常ニ當該土地收用ヲ手段トシテ施行スル起業トノ關係ニ於テ考察セラルヘキハ當然ニシテ我行政裁判所ノ判例モ亦之ヲ認ムルトコロナリ（明治四十一年第六九號事件同四十二年四月二十二日宣告、明治四十年第三二號同四十二年三月七日宣告）

三、然ルニ道路ノ新設又ハ改良等ノ起業ノ爲メニ土地收用カ告示セラルルヤ其ノ附近地ノ地價ハ騰貴シ始ムルヲ當トス此ノ騰

貴ハ道路ノ新設改良等ノ爲メニ將來其ノ地方ノ交通狀態ノ改善從テ繁榮ヲ期待スルニ因ルモノニシテ此ノ期待タルヤ價格騰貴ノ因子トシテ既ニ現在ニ於テ存在スルモノナレトモ若シ起業ナカランカ全然存在セサルモノヲ起業者カ新タニ創造シタルモノナルカ故ニ之ヲ以テ被收用者ニ歸スヘキモノトシテ之ニ因ル騰貴額ヲモ起業者ヲシテ補償セシムルハ起業者ノ犧牲ニ於テ被收用者ヲ利得セシムル不合理ナルモノニシテ前示損失補償ノ法理論スルカ如ク斯カル騰貴ハ起業中止トナレハ直ニ崩壞シ起業ノ完成ニ因リ始メテ確保セラルル泡沫的ノモノニシテ眞ニ確實ナル利益ト云フ能ハサルオヤ蓋シ補償ハ單ニ被收用者ヲシテ收用ナカリシナランニハ在リタルヘキ財產狀態ニ在ラシムルヲ目的トス然ルニ收用ナカランカ右ノ騰貴ヲ生スルコトナク從テ騰貴額ハ收用ナカリシナランニハ被收用者ノ財產中ニアラザリシモノナルカ故ニ之ヲ喪失スルモ被收用者ノ損失ニアラス從テ被收用者ニ對シ此ノ騰貴額ヲモ補償スルハ損失補償ノ限度ヲ超エ起業者ノ費用ニ依リ被收用者ヲ利得セシムルモノニシテ衡平ヲ失スルノミナラス損得相殺ノ原理ヨリ推定セラルル損害補償ノ法理ニモ反スヘシ（明治三十五年（オ）第四八號事件同年七月七日言渡判決、アンドレー收用補償論一九一四年三六頁以下、コフ

カ土地收用法一九一三年一六〇頁、エンネクテルス民法教科書
 第二卷一九二一年一八二頁、デルブルヒプロイセン私法論四九
 〇頁四九一頁、ヘルマンイザー及ルードルフイザープロイセン
 普通鐵業法論第二卷二五頁、ライヤー土地收用法原理一九〇二
 年版五三八頁—五三九頁、グリューンフト收用法一九七三年
 一〇六頁、エガー土地收用法第一卷第三版二七二頁、シュレヒ
 ター收用效力論二七六頁、其ノ他ローラント收用法ノ理論及實
 際一八七五年五九—六〇頁、ランゲルハンフザイ、テルフツク
 スルーテル、ヤンツアージュプツフレ等、佛法ニ關シテハレ
 モンロバン收用法論一九二六年二一七頁、英法ニテハコードン
 土地強制收用及補償論一九二九年版七六一八四頁、渡邊宗太郎
 博士土地收用法論一九六頁以下)

四、右ノ如ク收用及起業ニ因リ生スヘキ價格騰貴(下落ニ付テ
 モ同様ナレトモ暫ク之ヲ問ハス)之ヲ補償額算定ノ標準ト爲ス
 ヘカラサルハ一般損害賠償ノ本質ニ鑑ミ又土地收用補償ノ性質
 ニ照シ寔ニ當然ノ事理ニシテ又條理衡平ニモ適スルモノト云ハ
 サルヘカラス茲ニ於テ先進諸國ノ立法ハ此ノ自明ノ條理ヲ注意
 的ニ條文トナシ以テ其向フトコロヲ誤リナカラシメタリ例ヘハ
 プロイセン一九七四年土地收用法第八條第一項ハ「土地所有權
 ノ讓渡ニ對スル補償ハ收用セラレタル從物及果實ノ價格ヲモ包

含スル土地ノ全價格ヨリ成立ス」ト定メ土地ノ價格カ補償ノ一
 應ノ標準即チ指標タルヘキコトヲ定メタル上同法第十條第二項
 ニ於テ「讓渡セラルヘキ土地カ新施設ノ結果初メテ受クヘキ増
 加價格ハ補償額算定ニ當リ算入スヘカラス」ト明定シタリ之ト
 同種ノ規定ハザクセン土地法第二十三條佛國千八百七十年法第四
 十九條ノ外ライヤー(收用法論一九〇二年五三八頁)ノ研究ニ依
 レハ伊太利法第四十二條バイエルン法第十九條、ウエルテンベ
 ルヒ法第十條バーデン法第八條、瑞西聯邦法第三條第二項、ハ
 ンガリー法第二十五條、魏太利鐵道事業土地收用法第七條等皆
 然リトス而シテ之等ノ成文規定カ何レモ收用ニ因ル損失補償ノ
 本質ヨリ流出シ來レル當然ノ原則ヲ注意的ニ規定シタルニ過キ
 サルカ故ニ斯カル成文規定ノ存セサル場合ニ於テモ亦同様原則
 ノ適用ヲ見サルヘカラサルコトハ異論ナキトコロナリ(コフカ
 前掲一六〇頁、ライヤー前掲五三九頁本文及註第一一七頁)尙
 英國ニ於テハ判例ニ依リ右ト同趣旨ノ原則カ認メラレ居レリ
 (コードン前掲七六一八四頁)

五、或ハ右ノ所論ニ對シ被收用者ニ起業ニ因ル増加價格ヲ補償
 スルニ非サレハ被收用地ノ隣地ノ所有者ハ此ノ増加價格ヲ何人
 ニモ引渡スコトナクシテ保有シ得ルニ對比シテ所遇ヲ異ニスル
 不都合アリトノ説アリ寔ニ隣地ノ所有者カ何等ノ犧牲ヲ拂ハヌ

シテ起業者ノ費用ニヨリ取得シ保有スル價格騰貴ノ利益ニ對シ
起業者ハ成法上之ヲ自己ニ還流セシムル手段ナシ之實ニ立法ノ
缺陷ニシテ隣地所有者カ此ノ立法ノ缺陷又ハ懈怠ニヨリ斯カル
利益ヲ享受スルコトヲ得ルハ之レヲ幸福ト稱スルヲ得ルトスル
モ而モ甚タ不公平ナル幸福ト云ハサルヘカラス(斯カル不公平
ナル幸福ノ發生ハ例ヘハ土地増加税ノ制定ノ如キ立法ニヨリ之
ヲ防止スヘキニ拘ラス未タ此ノ事ナキハ立法ノ缺陷ト云ハサル
ヘカラス)固ヨリ之アルカ爲メニ起業者ニ責任アリトシテ被收
用地所有者ニ對シ其本來負擔スヘカラサル利益給付ノ義務ヲ負
ハシムル根據ト爲シ得ヘキニアラス公正ナル補償ハ起業者對被
收用者ノ關係ヲ顧慮シテ定ムヘク被收用者ト收用ノ法律關係ニ
入り來ラサル第三者トノ關係ハ之ヲ考慮スヘキモノニアラサル
ナリ然ラスンハ起業者ノ責任ヲ何等關係ナキ第三者ノ吉凶禍福
ニ依存セシムルニアラサレハ立法者ノ懈怠ヲ起業者ノ責ニ歸ス
ルモノニシテ到底其ノ可ナル所以ヲ知ラスエガ一適切ニ指摘ス
ル如ク「收用セラレサル土地所有者カ立法ノ懈怠又ハ缺陷ニヨ
リ收用者ノ損害ニ於テ不當ノ恩惠ヲ受クルノ故ヲ以テ同様ナル
不當ノ恩惠ヲ被收用者ニモ與ヘサルヘカラストノ結論ハ誠ニ奇
怪ナリト云フヘシ」(エガ一前掲二七三頁)論者ハ起業者ト何等
ノ責任關係ニ立たス起業者ニ於テ不當利益ノ引渡又ハ相殺ヲ主

張スル機會ト手段トヲ如何トモスヘカラサル隣地所有者ノ起業
者ニ對スル法律上ノ地位ト起業者ニ對シテ補償ノ要求ヲ爲シ起
業者ト債務關係ニ立テル被收用者トノ法律上ノ地位トノ相違ヲ
看過セルモノナリ(エガ一前掲二七三—二七四頁)隣地所有者
ノ不正ナル利得ニ對シテハ立法ノ缺陷ノ爲メニ法律生活ヲ支
配スル正義ノ觀念モ沈黙シテ拱手傍觀ノ外ナシ雖之固ヨリ異
常例外ニシテ之ヲ以テ常規ト爲スヲ得ス之ニ反シ被收用者ハ補
償請求權ヲ提ケテ起業者ニ迫レルモノナリ茲ニ於テ起業者ハ防
禦方法ヲ盡シテ此ノ要求ヲ邀ヘ撃ツ機會ヲ與ヘラレタルモノト
ス而シテ補償ノ根本理論ハ起業者ニ因ル價格増加ヲ補償額中ニ入
ルヘカラサルコトヲ命ス茲ニ初メテ法ノ正義ハ業ノ本然ノ力ヲ
現ハシ當事者ヲ衡平ニ保護スル職務ヲ盡シ得ルニ至ル即チ隣地
所有者ノ地位ハ立法ノ缺陷ニ基因スル不當ノ異例ニシテ被收用
者ノ起業者ニ對スル關係コソ正義ノ要求ニ適應セル常則ト爲ス
ヘク前者ヲ以テ後者ヲ律スルハ正ニ本末顛倒ノ甚シギモノト云
ハサルヘカラス被收用者カ隣地所有者ト同様ニ立法ノ缺陷ト云
フ恩惠ニ浴スルコトヲ得サルハ隣地所有者ニ對シテハ不幸ナル
ヘシト雖モ之レ被收用者カ被收用地ヲ所有スルニヨリ始マリタ
ル不幸ニシテ固ヨリ起業者ノ責任ニアラス況ンヤ隣地所有者ノ
不正ナル幸福ヲ羨望スルカ如キハ其レ自體亦不正ニシテ之ヲ

保護セサルヘカサル理由ナキオヤ然ラハ隣地所有者カ起業者ノ恩惠ヲ受クルノ故ヲ以テ被收用者ニモ亦之ヲ與ヘサルヘカラストナス所論ノ不合理ナルコト自ラ明瞭ナリ

(判決理由) 然レトモ土地收用ニヨル損失ノ補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル收用地ノ價格ヲ標準ト爲スヘキモノニシテ收用ノ目的タル事業ノ爲メニ收用時迄ニ收用地ノ價格ニ高低ヲ來シタル場合ト雖其ノ高低シタル價格ニ從フヘキコト夙ニ當院ノ判例トスル處(大正元年十一月二十日言渡明治四十五年(オ)第二百三十九號事件判決)ニシテ今尙之カ變更ノ要アルヲ見ス論者ハ之ト反對ノ見解ヲ主張スルモノニシテ採用ニ由ナキモノトス

(三) (大審昭和八年(オ)第三九六號 同九年二月二十六日言渡)

(要旨) 土地收用ニ因ル損失補償額ハ收用ニ基因スル附近土地ノ變動價額ヲモ考慮シテ收用時期ニ於ケル收用地ノ價額ニ依リ之ヲ決スヘキモノトス

(判決理由) 按スルニ土地收用ノ公表アリタル後ハ收用地域ノ細目公告前ト雖該地域及其ノ附近ノ土地ノ價格ハ收用ニ基因シ昂低變動スルコトアルヲ免レサルモノニシテ被收用者ニ對スル該土地ノ損失補償額ヲ決定スルニ付テハ須ラク斯ノ如キ收用ニ

基因スル價額ノ變動モ亦之ヲ參酌考慮シテ收用時期ニ於ケル收用地ノ公正ナル補償額ヲ決定スヘキモノトス若然ラストセンカ收用時期ニ於テ附近ノ土地ハ當時ニ於ケル事情ノ變化ニ因リ利不利ヲ受クルニ拘ラス收用セラルヘキ土地力之ト所遇ヲ異ニセラルルコトトナリ其ノ之ヲ是認スヘキ理由ヲ知ルヲ得サレハナリ(大正三年(オ)第一八六號同四年七月十二日當院判決、大正七年(オ)第六九一號同八年八月二十五日當院判決參照) 然ルニ今之ヲ原判決ニ照スニ原判決ハ本件收用地附近一帶ハ大正八年八月十三日被上告市カ告示第六十四號ヲ以テ路線トシテ收用スヘキ旨公告ヲ爲シタルヲ以テ附近土地ノ價額ハ著シク變動アルコトヲ認メ尙ホ附近ノ土地ニ付キ其ノ後ニ於ケル賣買價額ヲ認定シ乍ラ本件土地ニ付キ收用時期タル大正十二年八月十二日當時ニ於ケル係争損失補償額ヲ決定スルニ付キ何等以上特殊ノ事情ヲ考慮スルコトナク前示附近土地ノ收用時期ニ於ケル賣買價額ハ右補償額ヲ決定スルノ資料ト爲スニ適セサルモノト爲シ此ノ理ヲ基本トシテ本件補償額ヲ決定セリ之レ全ク前掲補償決定ニ對スル見解ヲ誤リタルニ因ルモノナルコト判文上明白ナリ

(四) (大審明治四十五年(オ)第三三九號 大正元年十一月二十日言渡)

(要旨) 土地收用ニ因ル損失ノ補償額ハ收用ノ時期ニ於ケ

ル收用地ノ價格ヲ標準ト爲スヘキモノニシテ收用ノ目的タル事業ノ爲メニ收用時期迄ニ收用地ノ價格ニ高低ヲ來シタルトキト雖其高低シタル價格ニ從フヘキモノトス

(判決理由) 按スルニ土地收用ニ因ル損失ノ補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル收用地ノ價格ヲ標準ト爲スヘキモノニシテ收用ノ目的タル事業ノ起サルルカ爲ニ收用時期迄ニ收用地ノ價格ニ高低ヲ來シタルト雖モ其高低シタル價格ニ從フヘキモノナルコトハ當院明治四十二年(オ)第三一六號事件ノ判決ニ於テ説示シタルカ如シ然レハ原院カ收用ノ目的タル事業ノ爲ニ騰貴シタル收用地ノ價格ハ之ヲ損失補償額ニ算入スヘキモノニ非ストノ見解ノ下ニ收用地カ起業ナキモノトシテ收用時期ニ於テ有スヘキ價格ニ依リテ本件土地收用ニ對スル損失補償額ヲ判定シタルハ法律ヲ誤解シテ不當ニ補償額ヲ確定シタルノ不法アルモノニシテ原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス

(五) (大審明治四十二年(オ)第三一六號
同四十二年二月四日言渡)

(要旨) 土地收用ノ當初ヨリ收用ノ時期ニ至ル迄ノ間ニ於テ土地ノ價格騰貴シ又ハ低落スルトキハ其變動カ收用其ノモノニ因リテ生スルト將タ其他諸般ノ原因ニ因リテ生スル

トヲ問ハス收用ノ損失補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル土地ノ價格ヲ標準トシテ定ムヘキモノトス

(判決理由) 按スルニ土地收用法ニ依リ收用スヘキ土地ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其損失ヲ補償スヘキコトハ同法第四十八條第一項ノ規定スル所ナリ又收用スヘキ土地ノ所有權ハ收用審査會カ裁決ヲ以テ定ムル收用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得スヘキコトハ同法第三十五條第一項第三號第六十三條第一項ニ依リテ知ルコトヲ得ヘケレハ收用ノ當初ヨリ右收用ノ時期ニ至ル迄ノ間ニ於テ土地ノ價格騰貴シ又ハ低落スルトキハ其變動カ收用其ノモノニ因リテ生スルト將タ其他諸般ノ原因ニ因リテ生スルトヲ問ハス所有者タル被收用者ニ於テ之カ損害ヲ受クヘキハ當然ナリ換言スレハ畑地所有者ハ收用ノ時期即チ所有權得喪ノ時期ニ於ケル畑地ノ價格ヲ標準トシテ其損失ヲ受クヘキハ當然ナリ是レ當院判例ノ認ムル所ナリ

(六) (大審大正元年(オ)第一五九號
同二年二月八日言渡)

(要旨) 土地收用ニ因ル損失補償額ハ所有者カ收用ニ因リテ被ルヘキ損失ノ補償ニ充テント欲スルモノナレハ之ヲ算定スル標準時期ハ收用ノ時期ヲ以テスルコト最モ公平ナルコトヲ論フ俟タス蓋シ土地收用審査會カ補償金額ヲ裁決ス

ヘキ時ニ於テハ常ニ未タ收用時期到來セスト雖モ土地收用
審査會ハ其ノ所信ヲ以テ收用時期ノ損失ヲ判斷スルヲ得レ
ハナリ

(判決理由) 土地收用法ニ依リ土地ヲ收用スルハ所有者ヲシテ
公共ノ利益ノ爲メニ其權利ヲ犧牲ニ供セシムルニ外ナラサレハ
損失補償額ハ周匝ニシテ遺慮ナキヲ期スルハ同法ノ精神ナリト
謂ハサルヲ得ス而シテ其補償額ハ所有者カ收用ニ因リテ被ムル
ヘキ損失ノ補償ニ充テント欲スルモノナレハ之ヲ算定スル標準
時期ハ收用ノ時期ヲ以テスルコト最モ公平ナルコト論ヲ俟タス
蓋シ土地收用審査會カ補償金額ヲ裁決スヘキ時ニ於テハ常ニ未
タ收用時期到來セスト雖モ土地收用審査會ハ其所信ヲ以テ收用
時期ノ損失ヲ判斷スルヲ得サル理ナシ是レ本論旨ノ如キ本院判
例ノ存スル所以ニシテ未タ之ヲ變更スヘキ要アルヲ見ス

(七)

(大審 明治三十五年(オ)第四八號)
同三十五年七月七日言渡)

(要旨) 收用スヘキ土地ヲ指定シタル時ヨリ收用ニ至ル迄
多少ノ時日ヲ隔ツル場合ニ於テ收用以外諸般ノ原因ニ因リ
土地ノ價格騰貴シ又ハ低落スルトキハ其騰貴若ハ低落ニ基
因スル損益ハ被收用者ノ受クヘキモノトス然シテ收用ノ爲

メニ其收用スヘキ土地ノ價格ニ高低ヲ生シタル場合ニ於テ
ハ其損益ハ被收用者ニ歸スヘキニアラス

(判決理由) 凡ソ土地收用法ニ依リ土地ヲ收用スルニ當リ收用
スヘキ場所ヲ指定スルモ未タ其土地ヲ收用セサル間ハ所有權ノ
被收用者ニ屬スルコト勿論ナリ然シテ收用スヘキ土地ヲ指定シ
タル時ヨリ收用ニ至ル迄多少ノ時日ヲ隔ツル場合ニ在リテハ收
用以外ノ諸般ノ原因ニ因リ土地ノ價格騰貴シ又ハ低落スルコトナ
シトセス此ノ場合ニ於テ其騰貴若クハ低落ニ基因スル損益ハ所
有權ヲ有スル被收用者ノ受クヘキモノタルハ當然ナリ獨リ收用
ノ爲メニ其收用スヘキ土地ノ價格ニ高低ヲ生シタル場合ニ於テ
ハ其損益タルヤ被收用者ニ歸スヘキモノニアラスト雖モ本件係
争ノ收用地ハ場所指定ノ時ニ比シ收用ノ際ニ至リ收用ノ爲メニ
特ニ地價ノ騰貴シタルコトハ原判決ニ於テ之ヲ認めサル旨ノ説
明アリ然レハ上告人カ保争地ヲ收用セラルルニ付其補償トシテ
受クヘキ地價即損失額ハ收用地指定當時ノ地價ニ據ラス實際收
用シタル際ニ於ケル地價ヲ標準トシテ之ヲ算定スヘキハ當然ニ
シテ指定ノ時ニ於ケル價格ニ準據スヘキ理由アルコトナシ

四、數箇ノ事業ト損失補償額決定標準

(大審 明治三十八年(オ)第二〇五號)
同三十八年五月二十九日言渡)

(要旨) 土地收用法ノ規定ニ依リ或事業ノ爲メ土地其他ノ物ヲ收用スル場合ニ於テハ同時若クハ近時其附近ノ場所ニ行ハレタル彼ノ事業ノ收用ニ於ケル損失補償額ト此事業ノ損失補償額トヲシテ常ニ必スシモ同一ノ標準ニ依ラシムルコトヲ得ス

(判決理由) 土地收用法ノ規定ニ依リ土地其他ヲ收用スルニ當リ被收用者ニ對シテ其損失ヲ補償スルハ被收用者カ之ニ因リテ受クル損失ヲ相當ニ補償セシムルニ在ルコトハ上告人所論ノ如シト雖モ收用セラルル土地其他ノ補償金額ハ同時若クハ近時附近ノ場所ニ於テ他ノ事業ノ爲メ收用セラルル他ノ土地其他ノ物ノ價格ト常ニ必スシモ同一ナルヘキモノニアラス二者起業ノ性質ヲ異ニシ其一ハ交通ノ便ヲ増シ近隣ノ畑地ヲシテ他日繁盛ナラシムルカ如キモノナルトキハ起業前豫メ近傍一般ノ地價騰貴ス可ク又他ノ一ハ以上ト反對ノ性質ヲ有スルモノナルトキハ地價依然タルベク若クハ低落スルコトアルヘクシテ是レ收用ノ際ニ於ケル土地其他ノ價格ニ當然影響ヲ及ボスヘキ所以ナリ其他收用セラルヘキ土地ノ大小廣狹等諸般ノ狀況ニ從ヒ各場合ニ依リテ定マルヘキモノナルカ故ニ同時若クハ近時附近ノ場所ニ行ハレタル彼ノ事業ノ收用ニ於ケル損失補償額ト此ノ事業ノ損失

補償額トヲシテ必スシモ皆同一ノ標準ニ依ラシメ得ヘキモノニアラス

五、損失補償額決定ニ關スル裁判所ノ權限

(大審明治三十八年(オ)第二〇五號) 同三十八年五月二十九日言渡

(要旨) 裁判所カ補償金額ヲ定ムルニ當リ他ニ行ハレタル協議上收用ノ補償價格任意上賣買ノ代價又ハ町村長ノ取調ヘタル賣買價格ニ羈束セラルヘキ規定ナク裁判所ハ當事者ノ立證又ハ鑑定ニ依リ自由ニ補償額ヲ定ムルコト得ヘキモノトス

(判決理由) 按スルニ裁判所カ損失補償金額ヲ定ムルニ當リ他ニ行ハレタル協議上收用ノ補償價格任意上賣買ノ代價又ハ町村長カ取調ヘタル賣買價格等ニ羈束セラルヘキ規定ナキカ故ニ此等ノモノニ拘ラス裁判所ハ當事者ノ立證又ハ鑑定等ニ依リ自由ニ補償額ヲ定ムルコトヲ得可キモノトス、仍テ原院カ以上ノ事項ニ關スル上告人ノ證言ヲ採用セザリシハ其職權ニ屬スルモノニシテ此ノ如キ場合ニ於テ上告人所論ノ如ク詳細ナル理由ヲ附スルコトヲ要セサルモノトス

六、使用料金決定ノ標準

(大審 大正五年(才)第六八一號)
同五年十一月十五日言渡)

(要旨) 使用料金決定ノ標準ハ土地ノ價格其使用ノ方法使
用時期ノ長短近傍類地ノ使用料等諸般ノ事情ヲ斟酌シテ定
ムヘク而シテ裁判所ハ特ニ其算定ノ基礎標準ヲ判文ニ明示
スルノ責ナシ

(判決理由) 使用スヘキ土地ニ付テハ其土地及ヒ近傍類地ノ料
金ニ依リ其損失ヲ補償スヘク使用料金トハ土地使用ノ對價ナル
ヲ以テ之カ算定ノ標準ハ土地ノ價格其使用方法使用時期ノ長短
近傍類地ノ使用料等諸般ノ事情ヲ斟酌シテ定ムヘク事實裁判所
ハ特ニ其算定ノ基礎標準ヲ判文ニ明示スル責アルコトナシ

恩恵も今も輝く農業土木の功勞者

東條就類通稱九郎右衛門といひ萩の須子掃部の子で東條
三郎右衛門の笥養子だが隠れた農業土木事業の大功勞者で
ある、嘉永年間小郡宰判の代官となつて彼は全力をこの事
業に傾倒し新田開作、築堤、排水工事などを積極的に實施
して莫大な農業増産を實現したのである。

管内で開拓した新田は小郡町の八方原開作、慶三開作を
はじめ實に四千三百餘石におよび百六十戸といふ多數の
農家が増えたばかりでなく同町林光の榎野川大井手を築
いて新舊田八千五百石にわたる灌漑の便を與へ、更にま
た吉敷郡嘉川、佐山、井關、秋穂、秋穂二島、陶、鑄錢
司、大道等の村々に築堤開拓せるもの實に多く大道村の
長澤池の如きは堰の長さ六百六十間餘、横二百十七間
餘、水面四十町歩におよぶといふ當時としては實に驚異

的大土木事業を耕地を少しもつぶさずに完成したのであ
る。

この池のおかげで大道、鑄錢司、陶の三村にわたり新舊田
六千石餘に對する灌漑用水を保有することに成功、多數の
農家をして永く早魃の憂ひから解放したのである、藩主秀
就は彼の功績を愛でて米百俵を與へまた寛文三年舊知四十
石に百十石を加増してその偉業に酬いたのである、現在で
もこの池が附近農村にいかにも惠澤をおよぼしてゐるかはた
うてい一口にはいへないほどである。

むべなるかな明治十三年附近農民は彼の徳を多としてそ
の偉業を追慕して池畔に津山社を創建し彼の靈を祀つたが
いまは八幡神社に合祀して崇敬してゐるのである。

まことに彼の業績こそは民政史上特筆に値するものであ
らう。